



28 議委 第62号  
平成28年11月22日

南会津町議会議長 五十嵐 司 様

南会津町議会総務委員長 楠 正次



### 委員会調査（行政視察）報告書

本委員会の所管事務調査について、調査の結果を別紙のとおり会議規則  
第77条の規定により報告します。

## 委員会行政視察報告書

期 日・平成28年10月4日～6日

視察先・①北海道東川町 ②北海道上富良野町

目 的・東川町 ①人口増加の取り組み

②移住・定住対策について

上富良野町 ①定住・移住対策について

出席者・委員長 楠正次、副委員長 貝田美郎、室井英雄、菅家幸弘

星登志一、五十嵐司

随行員・馬場議会事務局長

行政視察（10月5日）◆東川町役場会議室

対応者・松岡市郎町長、高橋昭典議会議長、大澤聡議会副議長、

鬼塚幹雄産業振興課長、高木雅人定住促進課長、

竹部修司議会事務局長

### 東川町概要

東川町は、大雪山を望む田園風景が美しい自然豊かな街です。大雪山連峰旭岳（標高2291m）を源水とする豊富な湧水に恵まれ、良質な伏流水で全町民が生活するという全国的にも珍しい上水道・簡易水道、鉄道、国道のない自治体です。

昭和60年に世界で初めて「写真の町」を宣言し、以来毎年7月から9月にわたってロングランの国際写真フェスティバル「東川町フォトフェスタ」や「写真甲子園」を開催しています。

住民基本台帳によると昭和31年6月の10,814人、国勢調査によると昭和25年の10,754人それぞれをピークに減少に転じました。平成5年度に7,000人を割り込みましたが、平成6年度以降、町の特性を活かした魅力ある施策、子育て支援・起業家支援および町有地の宅地造成・分譲を進めてきた結果、平成7年から再び増加に転じています。本年（28年）3月末においては8,018人に増加しています。

### 調査内容 人口増加対策・定住・移住の取り組みについて

昭和から平成に変わっても人口減少がさらに進み、平成5年には7,000人を割りました。そこから本格的に東川町の理想とする人口を検討し、松岡町長が2期目に入った平成16年に「適疎」という言葉を使うようになりました。

「適疎」とは、過密でなく過疎でもない、理想とする人口を8,000人としました。

大雪山の麓の町らしく、美しい自然景観と住みやすい環境、美味しいミネラルウォーターで暮らせる、全国的にも稀な「地下水」の町としてアピールすると共に、町有地の宅地造成販売を行い、民間アパートの造成支援、店舗や工房などの起業家を積極的に支援し続けて人口増加につなげてきました。

「豊かな暮らしや温かさは住まいから」との考えの下、また住まいは街並みを構成する重要な要素であり、「東川風住宅」とはということが協議され、大雪山の山並みとの調和、緑が豊かで潤いのある住宅景観を目指しました。

敷地面積を330平方メートル以上とし、敷地に対する建ぺい率を40%以下としました。緑豊かな環境の推奨例として樹高5m以下、5～10mまで、10m以上と樹種を具体的に示すと共に、樹木や花、芝で敷地の20%以上の緑地率を求めています。また屋根の形状も切り妻屋根、三角屋根、寄せ棟屋根を基準に、屋根は重厚な色、外壁は夏の緑よりも派手さを抑え、雪景色でも温かみのある印象の色（茶・こげ茶・クリーム等）を推奨しています。

「東川風住宅」支援は、新築の場合カーポートや物置建築費の二分の一以内、上限50万円(二世帯は100万円)を補助し、平成18年以降は90棟以上が建築されました。しかし一戸建てだけでは人口増加に効果的とは云えず、民間の賃貸住宅にも、一戸当たり180万円(町外業者は120万円)の支援をしています。

親が年老いたためにUターンするケースに対しても補助制度があり、実家の隣りに建てても、少し離れたところに建てても新築は200万円、改築に対しては100万円補助します。

| 年 度  | 人口      | 増減    | 出生数     | 転入者数    | 転出者数    | 宅地    | アパート    | 新築住宅      |  |
|------|---------|-------|---------|---------|---------|-------|---------|-----------|--|
| H 5年 | 6 9 7 3 |       | 4 7     | 3 9 2   | 4 0 3   |       |         |           |  |
| H 6年 | 6 9 9 6 | 2 3   | 5 1     | 4 4 0   | 3 9 7   |       |         |           |  |
| H15年 | 7 5 3 0 | 3 4   | 5 5     | 4 3 7   | 3 7 7   |       |         |           |  |
| H27年 | 8 0 1 3 | 5 1   | 4 9     | 4 8 9   | 3 8 6   |       |         |           |  |
| 合 計  |         | 9 9 4 | 1 1 1 0 | 9 8 3 6 | 8 2 6 1 | 7 1 1 | 3 0 8 戸 | 1 2 4 6 戸 |  |

新規の起業家には、固定資産の取得費用の三分の一以内で、上限100万円を補助して、平成15年度から27年度までに80件を超える起業家に支援をしています。

平成5年から移住定住促進施策を展開し、平成25年度に定住促進課を設置して移住・定住に対する相談は課内の「住まい室」が担当しています。

東川町の冬は気温がマイナス20度を超えるほどの気候なので、冬の生活体験を経験してからの移住を勧めています。

かつて町内に4保育所と1幼稚園がありましたが、保育所の建物老朽化に伴い建て替えが必要になったことから、運営経費の面からも統合の検討が始まり役場内に検討委員会が立ち上げられました。翌年に保育環境に係る「開設準備会議」が幼稚園教諭・保育所職員をメンバーに計14会開催されました。

議会にも特別委員会が設置され、幼稚園と保育所が同じ施設で平等に保育と教育ができないものかと、幼保一元化の協議を行い、一元化の方向で保護者や住民説明会を開催しました。2002年に幼児センターが子育て支援センターと併設した形でオープンしました。オープン当時、施設は同じでも幼稚園と保育所の部分と分けての運営だったが、翌年に内閣府の構造特区の認定を受け、2004年から「幼保一元施設」として幼保混合クラスの実施になりました。

開設当時年長児だった子供たちは現在大学生になっており、「元気で、やさしく、楽しく遊び、考える子」の育成理念により、さまざまな体験を通し、丈夫な体と豊かな心を育み「ふるさと東川」という、地域や人に対する郷土愛が培われるものと考えます。

前例がないこと「幼保一元施設」「幼保混合クラス」等をどうしたら出来るのか、なぜ出来ないのかと、県が応えられない場合には、県に対して国の機関にお願いすることの了解を得て、直接省庁に要求して結果を出している。

### 「君の椅子」プロジェクト

誕生する子供を迎える喜びを、町全体で分かち合う地域社会を取り戻したいとの想いを込めて、誕生した子供に「君の居場所はここだよ」と「家族の愛に包まれ健やか育って欲しい」とメッセージを送ります。椅子の裏にはシリアルナンバー、名前、生年月日が刻印され、まさしく世界に一つだけの椅子となります。

この事業によって、東川町の住民の絆が強くなり、連携の意識が高まり、行政のトップ自らが、子供の誕生をオンリーワンの「君の椅子」でお祝いすることに町民は感謝をすると共に、東川町民であることに誇りをもっています。

役場に行く前「道の駅」で時間調整の時に、愛知県からの移住者にお話の機会をいただきました。森様という女性で、名刺には野菜ソムリエ・調味料ジュニアマイスター・カレーマイスター・北海道フードマイスターとあり、森さん

は仕事で全国を廻り、終の住処を探していたとのことです。森さんがおっしゃるには役場職員の誰に話しても「しっかりした対応をすぐにして下さる」ので、私たちも「町のために出来ることはやろう」という気持ちにさせられると言われたことは重く心に残りました。

松岡町長の言葉に、「役場職員に特別な職員があつてはならない、誰がどの部署に行っても住人に安心してサービスが提供できるようにしている」「役場職員は究極のサービス業である」非常に重要であるとあらためて認識致しました。

#### まとめ

視察前から、議会事務局長が東川町の議会事務局職員の受け答えに感動をしたと聞き、どのような町なのかと想いを馳せながら訪れました。

役場近くの道の駅で移住者との語らいの中、職員のサービス精神や住民福祉等に取り組む姿勢など伺い、視察先としての選択が正しかったと実感いたしました。

「前例がない・ほかの地域でやっていない・お金がない」など、出来ない理由を探さず、「どうすればやれるか・出来るか」という徹底した姿勢が感じられ「まちづくりは人づくり」の見本と感じました。

「君の椅子プロジェクト」「写真の町課設置」「地下水での生活」「東川婚姻届」「東川株主制度」「幼保混合クラス」等々枚挙にいとまがないオンリーワンの取り組みがされており、「町は住民を愛し、住民は町を愛す」当たり前のようだが究極の住民サービスで町民の安心と安全が担保されて人口の増加（移住・定住）につながっていると感じました。

## 視察内容 上富良野町移住定住について

### 場所・上富良野町会議室

期 日 10月5日午後3時

対応者 西村昭教議長、向山富夫町長、石田昭彦総務課長、  
佐藤根翔大総務課主事、林敬永議会事務局長、  
岩崎昌治議会事務局次長

### 上富良野町の概要

北海道の中心に位置し、札幌に2時間、旭川に40分、富良野市に15分（いずれも車）と比較的アクセスの良い町です。

人口11,000人で、その内1,900人が陸上自衛隊駐屯地の人たちで構成されています。十勝岳連邦と丘陵田園の景観が美しい「農業」と「観光」の町で、丘陵一面のラベンダー畑や十勝岳中腹にある「十勝岳温泉郷」などの観光名所が多い町です。また養豚業も盛んで現在4万頭が飼育されており「かみふらのポーク」は高い評価を受けています。

2月は「かみふらの雪まつり」6月は「十勝岳山開き」7月は「花と炎の色彩祭り」10月は「十勝岳紅葉祭り」大晦日から元旦かけての「北の大文字」と四季折々のイベントを開催して観光有客にも力をいれた町です。

### 調査内容

- 1、平成23年に役場関係者で「上富良野町定住・移住促進プロジェクトチーム」を組織してワークショップを実施。
  - ① 策定趣旨②現状課題把握③施策・体系の方向から会議して、具体的施策については、役場以外の関係機関を構成員とした協議会設立。
  - 2、上富良野町定住移住促進協議会設立
- 委員・上富良野町
- ・一般社団法人かみふらの十勝岳観光協会
  - ・上富良野町商工会
  - ・ふらの農業協同組合
  - ・上富良野町法人会
  - ・上富良野町アパート組合
- 3、具体的取り組み
  - (1) お試し暮らし住宅として、遊休財産であった教員住宅2戸を利用  
28年9月からさらに2戸追加  
27年実績 10件 延べ204日 延べ利用人数431名  
28年実績 12件 延べ247日 延べ利用人数449名

(2) 北海道暮らしフェアの参加 27年相談件数123名

(3) 平成24年から空き家バンク設置

#### 移住実績

| 年 度     | 相談件数 | 移住件数 | 移住人数 |
|---------|------|------|------|
| 平成 16   | 10   | 2    | 2    |
| 平成 20   | 24   | 3    | 4    |
| 平成 25   | 40   | 5    | 8    |
| 平成 26   | 146  | 10   | 15   |
| 平成 27   | 158  | 3    | 4    |
| 合計16～27 | 608  | 71   | 122  |

『お試し暮らし住宅』を27年度から設置して、希望の方に10日～3ヶ月の期間で貸しています。お試し住宅はテレビ、冷蔵庫、電子レンジ、ガスレンジ、洗濯機、石油暖房も設置されています。(w i - f i) 可

利用料金 夏期(5月～10月) 日額2000円

冬期(11月～4月) 日額2500円

『移住準備住宅』教員住宅再利用

上富良野町に移住を希望する(恒久的な住居や土地を探す)方に1年以内と限定で賃貸住宅です。(家具等無し)

利用料金 月額6,000円～15,000円

#### まとめ

移住者を呼び込むための特典的な要素は作ることなく、「現住の町民が幸福感を持つことが重要である」と説明を受けて、上富良野町に住む人の幸福度を上げるための健康寿命アップ、子育て支援の充実、不妊治療費の補助(上限なし)などの制度があります。

首都圏に無い自然や文化・幸福度の見える化と、お互いに相手を思いやる「コモンズ」まちづくりで緩やかではあるが人口増加対策につなげていると感じました。

## 総 括

東川町・上富良野町を視察して、あらためて南会津町も南会津らしさの追求と生活環境を作るために、人材育成・産業育成が必要と思います。

農・林業の再構築と共に小さな職場の設置が重要と思います。生涯現役のまちづくりには、月額5万円程度の収入を得ることが出来、高齢者が生きがいを持ち生活できる環境づくりが重要と考えます。このことは健康寿命の延伸につながり医療費の削減にもつながり生涯現役のまちづくりの基礎になると思います。

そのためには情報技術のさらなる整備促進と、新たな資源探求の出来る人材の育成が重要と考えます。公僕にあるものは「自分ごと・みんなごと・世の中ごと」の想いを強く持ち、住民福祉の向上と安全・安心のまちづくりに貢献すべきと考えます。

そこに住んでいる人たちが町に誇りを持つ、自分自身が町に協力を惜しまない、町を愛していると自信をもって言える町になることが、住みたくなるオンリーワンの町づくりであり、定住・移住先に選択されると考えます。